The Library in the world

ラヴェンナのクラッセンセ図書館

ファビオ・ランベッリ（文化学部教授）

今年度、海外留学研修のためイタリアにいます。所属は札幌大学文化学部協定校のボローニャ大学文学部コミュニケーション科学学科ですが、住まいはボローニャの隣の町ラヴェンナです。通勤時間は一時間・一時間半です。今回は、在住のラヴェンナ市が誇りに思う文化施設・クラッセンセ図書館です。ラヴェンナ市立図書館ネットワークの中心地で、ユニークな図書館です。1515年に建立されたカマルドリ会の修道院の図書室がその前身でした。修道士が1797年まで書物をたくさん集めて、本来の図書室をいまの図書館にまで拡大していきました。16世紀・ルネサンス式の建物は少し残っていますが、全体的には図書館はバロック式です。特に大講堂はバロック建築のすばらしい事例です。フランス革命後、1700年代の末にナポレオンがイタリア半島に進攻して様々な制度の改革を行いました。その一環としてカトリック教会の所有物を国家や町に返還するというのがありました。したがって、1803年にクラッセンセ図書館はラヴェンナ市の図書館になりました。その後、ラヴェンナの教会の古文書や諸記録、および多くの有名な研究者などの文庫を購入して、ラヴェンナ市の総合記録（10世紀から今日まで）を保管し、現在、ラヴェンナの文化活動の貴重な基地になっています。

所蔵書物は約75万冊です。数千冊の古写本は主に13世紀から18世紀までで、その中で13世紀のラテン語の聖書と16世紀のダンテの神曲などがあります。（ダンテはイタリア文学の最も偉大な詩人の一人で、1321年にラヴェンナで死にました。クラッセンセ図書館には、ダンテ関係の資料がたくさん集めてあります。）そして、ラヴェンナ市の歴史関係の図像セクション（3万以上の映像は昨年デジタル化されオンラインで検索ができます）など、貴重な資料を豊富に集めてイタリアでもユニークな図書館になっています。その他に、インターネットやOPACオンライン閲覧端末がたくさんあります。利用者のための座席は180ですが、天気のいいときに、もと修道院の庭などでも本が読めます。資料の調べや閲覧にはとても使いやすく気持ちのいい空間です。2003年に約10万6千人のお客さんが図書館の様々なサービスを利用しました。（ちなみにラヴェンナ市の人口は約14万人です。）特に、開架の閲覧とは別に、約11万件の本や資料の閲覧依頼（図書館での閲覧と貸し出し）がありました。同じく2003年に図書館でインターネットの末端を利用したお客さんは約8000人でした。参考のために、図書館は平日8:30～19:00、土曜日は8:30～13:30までオープンです。（私立図書館ネットワークの他の施設はそれぞれ違う時間のサービスがありますが、雑誌閲覧館は22:30までオープンです。）利用者の中には、数年前にできたボローニャ大学ラヴェンナ校（文化財保存学部、法学部、自然科学、など）の学生が多いです。

クラッセンセ図書館では一年中、様々な文化イベントが開催されます。例えば今年の4月から、グラフィックデザインの展覧会、イタリア近代史（独立運動）についての講演、フランス現代思想の巨匠・ジルドゥルーズの教育思想の講演、ラヴェンナ弁の詩の朗読会（ラヴェンナ弁は標準イタリア語とはだいぶ違う言語体系で、約100年前まではほとんど書かれたことがない、口頭文学として貴重な文化的価値があるものです）、そして1921年に毎年行われる、ダンテの作品とその文化背景についての「クラッセンセ講演」（今年はダンテと芸術）というイベントがありました。基本的には、クラッセンセ図書館でのイベントは所蔵の「本」が主人公で、クラッセンセが保管する文化遺産を市民に知らせる目的をもちます。

ラヴェンナ市立図書館ネットワークには、クラッセンセ図書館の他に、マルチメディア館、雑誌閲覧館、子どもの中央図書館（児童文学、教育や遊び関係のイベント開催、インターネット、マルチメディア室、ゲームなど）があり、それぞれの町の中心地の歴史的な建物にあります。面白い事業として「ビブリオブス」（本のバス）というものがあります。夏のあいだこのバスはラヴェンナ市の海岸のリゾート地を巡回してビーチで読みたい人に本の貸し出しをしています。毎週同じリゾート地を訪ねるのでそのときに借りた本を返し新しい本を借りることができます。冬のあいだはこのバスはラヴェンナ市内陸の小さい村や老人ホームなどを訪ねます。

クラッセンセ図書館の中庭
（クラッセンセ図書館のホームページより）